

1. 論文のカテゴリおよび査読方針

本学会が刊行する論文誌の論文には、表1に示すカテゴリがあります。本学会によって企画される論文特集号の論文のカテゴリも表1に準じますが、コンセプト論文、萌芽論文の投稿は受け付けません。

表1 論文のカテゴリ

カテゴリ	内容	ページ数* (刷り上がりページ数)
原著論文	①技術論文	人工知能に関わる完成度の高い研究について論じたもの。
	②実践 AI システム論文	人工知能に関わる実践的なシステムについての多様な知識やノウハウであり、会員が他の事例に展開可能な議論を含み、当学会がオーソライズする意義のあるもの。
	③コンセプト論文	斬新な発想による新しい概念や方式で、魅力的内容で発展性があると判断されるもの。
④速報論文	人工知能に関わる新しい研究開発成果の速報。	原則 2~4p
⑤萌芽論文	人工知能に関わる発展途中の研究について論じた論文。	原則 8p 程度

*見出し、図表、付録、著者紹介などをすべて含めた原稿の枚数。

下記に、各カテゴリの査読方針を示します。

①原著論文（技術論文）

内容に新規性・有用性があり、かつ十分な裏付けにより信頼性があり、会員に有用であると認められるものとします。

②原著論文（実践 AI システム論文）

下記に限るわけではありませんが、実践 AI システム論文の主な例を示します。

1. 問題に即した既存技術の有効な使い方
2. 既存技術の有用な組み合わせ方
3. 有用なツールの開発
4. 面白いアプリケーションの開発
5. 既存技術の効果的な実現法
6. AI システムが有効に働く環境の分析
7. 技術内容を含むビジネス価値・開発コストの評価
8. AI システムの開発・運用におけるノウハウの体系化

伝統的な論文査読基準では、新規性、有用性、信頼性の面から定量的な実験結果などに基づく客観的な評価が求められますが、実践 AI システムではそれを提示することが困難な場合も少なくありません。そこで、査読方針としては、会員がほかの事例に展開可能な議論を含み、当学会がオーソライズする意義があると認められ、十分に客観的な評価結果を提示できない正当な理由が存在し、かつ提案するしくみから得られる作用や効果が論理的に矛盾のない形で主張されているならば、定性的な評価でも採録することとします。

③原著論文（コンセプト論文）

学問分野がある程度確立され成熟してくると、厳密な定式化、そして信頼性のある評価実験による有用性の検証などを備えた完成度の高い論文が要求されるようになります。これは学問の自然な発展の傾向であるといえますが、人工知能研究そのものもつつ cutting edge 的性質にはそぐわない性質であるともいえます。人工知能研究の分野を開拓してきた先端的研究は、論文に対する上述のような成熟分野の基準では判断できないと思われます。

例えば、Minsky の Frame 理論の論文、一般フレーム問題、ロボカップの提案など、多くの研究は学問と技術の進展に大きな貢献をした成果ですが、そのいずれも、発表時点においては、成熟分野の基準では評価することの難しい仕事であったといえます。また、これらの研究は、提案時点においては実証が不十分であっても「意義ある提案」といえる概念や方式の提案、あるいは問題提起であり、そのために膨大な努力がなされていますが、その有用性が目に見えるようになるまでは時間がかかります。

コンセプト論文はこのような論文を進んで採録することを目的としています。査読方針としては、定量的評価および客観的な評価はあまり重視せず、編集委員会の責任のもとで判断することとします。

④速報論文

内容に新規性があり、会員に有用であると認められるものとします。ただし、十分な裏付けなどは必要とはしません。

⑤萌芽論文

将来の発展を期待させる構想および一定の研究成果を含み、達成された部分と未完の部分が明確に区別され、会員に有用な知見をもたらすと認められるものとします。

2. 論文に関する規程

以下の規程を十分に理解した上で執筆・投稿してください。2名以上の連名で執筆する場合は、本学会事務局および担当編集委員との連絡を担当する代表著者が共著者全員に以下の規程を周知する責任を負います。

2.1 投稿資格

論文を投稿できる方は、原則として本学会の個人会員（正会員または学生会員）に限ります。著者が2名以上の連名の場合には、少なくともそのうち1名は本学会の個人会員（正会員または学生会員）であることが必要です。

2.2 使用言語

論文は、日本語、または、英語で執筆するものとします。

2.3 対象分野

論文が対象とする研究分野は、表2に表示されるキーワードに含まれる分野です。本学会が対象としない分野であることが明らかな論文は、5.3 a. 項に該当するため不採録となります。

2.4 ダブルブラインドレビュー

本学会では、論文の査読にダブルブラインドレビュー（査読者・著者とも互いに誰か知ることのできない査読方法）を採用しています。論文の**本原稿**（論文誌に掲載される刷り上がりイメージと同一のもの。担当編集委員が閲覧）とともに、**査読者用原稿**（著者リスト、謝辞、著者紹介を含めないもの。査読者が閲覧）もあわせて作成し、投稿してください（LaTeX環境で執筆の場合は、`\documentclass` 命令に `blindreview` オプションを指定）。なお、執筆にあたっては著者の属性が査読者にわからないように、十分な注意を払ってください。

とくに、著者自身、もしくは著者が所属する研究グループによる文献の引用にあたっては細心の配慮が必要です。**本原稿、査読者用原稿の別を問わず、著者の属性を明かさなような記述（下記に例示）を行ってください。**なお、**二重投稿の疑義を合わせて避ける必要がある場合は、2.5項に示す手順にしたがってください。**

査読者に著者の属性がわかってしまった場合には、5.3 g. 項に該当するため不採録となります。

【不適切な例】

我々の研究グループによる先行研究 [山田 16]においては、●●という問題があった。そこで本研究では、...

【適切な例】

山田らによる先行研究 [山田 16] においては、●●という問題があった。それに対して本研究では、...

2.5 二重投稿

投稿に際して、二重投稿の原稿は受け付けません。執筆者が著者に含む既発表または投稿中の論文と同一内容または極めて類似した内容の論文を本学会論文誌に投稿した場合には、二重投稿に該当します。ただし、既発表または投稿中の論文が、以下の場合には二重投稿にはあたらないものとします。

- 学士論文・修士論文・博士論文。また大学や企業のテクニカルレポートなど
- 本学会や他学会の査読の無い大会・研究会・ワークショップの予稿集・プロシーディング・解説原稿など
- 国際会議の予稿集・プロシーディングなど
- 書籍、新聞記事、特許、プレプリントサーバに投稿された論文など

二重投稿にあたらぬ既発表または投稿中の論文がある場合、二重投稿の疑義を避けるために、必ず引用するとともに、論文の差異の説明を行ってください。その際、著者の属性を明かさなため、著者名を伏せた形 (A, B, C, ... などの記号で置き換え) での引用を行ってください。また、該当論文から著者リスト、謝辞、著者紹介などを除いたものを添付して投稿してください（必要に応じて担当編集委員および査読者が参照します）。

【既発表もしくは投稿中の論文の参考文献記述例】

[A 20a] A, B, C. “人工知能による論文執筆の可能性”, 研究会予稿 (既発表) (2020)

[A 20b] A, B, C, D. “Possibilities of Writing Articles by Artificial Intelligence”, 国際会議論文 (投稿中) (2020)

【既発表もしくは投稿中の論文の引用の例】

- 本論文は, Aらの研究成果[A 20a]をもとに, 投稿を行ったものである。
- 本論文は, Aらの研究成果[A 20a]に, 追加実験を行った上で改訂したものである。
- 本論文は, Aらの二つの研究成果 [A 20a, A 20b]をまとめたものである。

なお, 本学会において二重投稿に当たらなくとも, 他学会などにおいて二重投稿と判断される場合があるので注意してください。

2.6 オーサーシップ

論文の執筆プロセス (研究計画の発想・立案, 実験の遂行, ディスカッションなどを含みます) に際して, 主体的な関わりがあり, かつ投稿論文の内容に責任をもつすべての方を著者リストに列挙する必要があります。誰を著者リストに含めるか, および著者リストの順序については, 関係者全員の合意が必要です。 **本学会へ論文を投稿後は, 原則として著者リストを変更することはできません。** ただし, 照会事項に対応するために新たな著者を追加する必要がある場合はこの限りではありません。

3. 原稿の体裁と書き方

論文の原稿は, 以下の規定に沿って執筆してください。不明な点については, 電子メールにて本学会事務局 (editor@ai-gakkai.or.jp) に問い合わせてください。

3.1 スタイルファイルの利用

論文の原稿は, 論文誌用のスタイルファイルを利用して執筆してください。スタイルファイルは, 以下の本学会 Web サイトから入手可能です。

「論文誌用のスタイルファイル」

https://www.ai-gakkai.or.jp/published_books/transactions_of_jsai/toukou/

原稿は, LaTeX システムによる作成を原則とします。論文誌用のスタイルファイルを用いて作成した場合には, 論文誌に掲載する刷り上がりイメージで作成できます。LaTeX システムは日本語版 pLaTeX を標準とします。LaTeX システムの違いによる印刷イメージの差異の調整は執筆者の責任とします。やむを得ず LaTeX システムを用いることができない場合には, Microsoft Word 形式のスタイルファイルも利用することができます。

3.2 原稿の構成

原稿は, スタイルファイルに沿って, 以下に示す構成により執筆してください。

見出し

原稿の 1 ページ目の冒頭に, 以下の項目をスタイルファイルに沿って記述します。

- **タイトル**
本文を日本語で記述する場合には, 日本語および英語で併記してください。本文を英語で記述する場合には, 英語のみで差し支えありません。英語については, 前置詞, 接続詞, 文中冠詞などを除き単語の先頭文字を大文字にします (例: Journal of the Japanese Society for Artificial Intelligence)。タイトルが長く, 1 行で記述できない場合は適切な箇所で行改行してください。サブタイトルも併記可能です。
- **著者リスト (著者名・所属・連絡先)**
本文を日本語で記述する場合には, 日本語および英語で併記してください。本文を英語で記述する場合には, 英語のみで差し支えありません。連絡先として, 著者のメールアドレス, Web サイトの URL (あれば) を記述してください。同じ所属の著者が連続する場合は, 所属を「(同上)」として繰り返しを避けてください (LaTeX システムでの執筆の場合は `\sameaffiliation` 命令を利用)。査読者用原稿 (2.4 項参照) には, 著者リストを含めてはいけません。
- **キーワードリスト (Keywords)**
2~5 語を目安に, 英語で記述してください。略語や固有名詞などの場合を除き, 小文字で記載します。
- **要約 (Summary)**
内容の概要を 200~500 ワードを目安に英語で記述してください (速報論文については 200 ワード以内)。

ヘッダ

各ページの上部に, スタイルファイルに沿ってヘッダとして日本語タイトルを記述してください。タイトルが長く, ヘッダに収まらない場合は適宜短くして記述します。本文を英語で記述する場合には, 英語で記述してください。

本文

見出しに引き続き、スタイルファイルに沿って適宜章立てて記述してください。まえがき、本論、むすびの順とすることが望ましいです。文献の参照が必要とされる場合は、後述の参考文献リストに含めた上で、[Quinlan 86]のように引用記号を用いて参照を示してください。一箇所ですべての文献を参照する場合は、[Quinlan 86][Freund 96]とはせず、[Quinlan 86, Freund 96]のようにまとめて示します。なお、投稿者自身（あるいは投稿者と所属する、または投稿者と密接な関係をもつ研究グループの方）が著者である文献を参照する場合は、投稿者との関係がわかるような記述を避けてください（2.4項も参照のこと）。

謝辞

研究協力者などによる貢献、研究助成など、謝辞にて言及すべき事項があれば、スタイルファイルに沿って適宜記述してください。なお、査読者用原稿（2.4項参照）には、謝辞を含めてはいけません。

付録

長い数式の誘導、装置やシステムの詳細説明などが必要な場合、本文を読みやすくするため、本文から分離して付録としてください。ただし、ページ数には付録分も算入されます。

参考文献リスト

掲載順は、日本語・英語問わず著者姓のアルファベット順とします。各文献の冒頭には、本文中の引用記号として[Quinlan 86]のように第一著者姓と執筆年（原則として西暦年の下2桁）を記述してください。原則として、すべての参考文献は本文中で被参照箇所が明示されている必要があります。

LaTeXシステムにおいてBibTeXにより参考文献リストを作成する場合は、スタイルファイルに同梱されているjsai.bstを用いてください。BibTeXを用いない場合は、以下の「科学技術情報流通技術基準-参考文献の書き方（SIST 02）」を参考に作成してください。

「科学技術情報流通技術基準-参考文献の書き方（SIST 02）」
https://jipsti.jst.go.jp/sist/handbook/sist02_2007/main.htm

著者紹介

原稿の末尾に日本語または英語で記載してください。刷り上がりページ数には著者紹介も含まれます。略歴は日本語の場合200～300字程度（英語の場合は8～120words程度）とし、氏名、正会員・学生会員の別、出身（または在学）学校学部学科名（略称ではなく正式名称）と修了年次、職歴、現職と職務、受賞、学位、主な所属学会などを記入します。年代は西暦で表記してください。また、論文誌では、原則として顔写真を掲載します。なお、査読者用原稿（2.4項参照）には、著者紹介を含めてはいけません。

3.3 記法

本文などは、原則として以下の要領で記述してください。具体的な記法についてはスタイルファイルの記載例も参考にしてください。

- 特別な場合を除き、常用漢字、新仮名遣い、アラビア数字を用います。
- 日本語の句読点はカンマ（,）とピリオド（.）を使用し、“、”や“。”は使用しません。また、数式や英語文中でのみで半角の句読点を用い、日本語文中では全角の句読点を使用します。
- 脚注は各ページの下部に記述し、*1, *2, *3, ...のような引用記号を用いて参照します。
- 専門用語については脚注などで簡単な用語説明を添えることが望ましいです。本文中に使用する記号には必ず説明をつけてください。
- 数字、ローマ字、ギリシャ文字、記号などは特に明瞭に書いてください。大文字、小文字、書体、上付き、下付きの別も見分けられるように記します。
- 数式は原則として文中にて独立した行として記述します。複雑な式は複数行を用いて書き、文書の幅をはみ出さないように注意してください。文中に数式を埋め込む場合には、 a/b , $\exp(x/y)$ のような記法を用います。

LaTeXシステム用のスタイルファイルは、本誌の組版体裁に従って、各種パラメータと出力形式を変更していますので、レイアウトにかかわるパラメータの変更は絶対に行わないでください。

3.4 図表

本文および付録中の図表は、原則として以下の要領で記述してください。具体的な記法についてはスタイルファイルの記載例も参考にしてください。

- 原稿の図（写真を含む）および表は日本語または英語で作成し、一連番号を付け、日本語または英語のキャプションを記します。
- 図のキャプションは図の下部に、表のキャプションは表の上部に付与してください。
- 図表に用いる図面や写真は、電子データ形式での入稿を原則とします。
- LaTeXシステムを用いた執筆の場合は、figure環境およびtable環境を用いて図表を原稿中の適切な場所に挿入してください。LaTeXシステム以外での執筆の場合は、図、表の挿入位置を原稿の右欄外に示してください。

3.5 ユニバーサルデザインへの配慮

掲載される論文は、視覚障害をもつ方を含む多様な人々によって読まれる可能性があります。また、色の見え方にはかなりの個人差があるため、人によっては一部の色の組み合わせの区別が難しく、カラーを用いた図表の理解に困難を感じることもあります。以下の項目を考慮に入れて、より多くの人々に読みやすい原稿を作成してください。

- 図表に用いる文字フォントは、できる限り本文のフォントと同等以上の大きさとしてください。
- 図表中での異なる要素同士の混同を避けるため、図表中に適度な余白を設けるようにしてください。
- 多様な色の見え方に配慮した色遣いを行ってください。具体的には、「カラーユニバーサルデザイン推奨配色セット制作委員会」によって制定されたガイドブックなどを参考にしてください。
カラーユニバーサルデザイン推奨配色セット ガイドブック 第2版
<https://jfly.uni-koeln.de/colorset/>

4. 原稿の提出方法

事務局への原稿の提出、担当編集委員とのやりとり、最終原稿の校正などは、原則として電子メールを利用します。

4.1 原稿提出票の記入

原稿の提出にあたっては、所定の原稿提出票（投稿論文用）のフォーマットを以下の URL よりダウンロードし、必要事項を記入してください。

[原稿提出票_投稿論文用](#)

4.2 原稿の提出先

原則として投稿論文は「本原稿」と「査読者用原稿」の2編をPDFで作成し、上記の原稿提出票とともに、電子メールの添付ファイルで本学会事務局 (editor@ai-gakkai.or.jp) へ提出してください。

なお、論文特集号への投稿の場合には、提出先が異なります。論文特集号の募集要項に従ってください。

4.3 再投稿論文

過去に不採録と判定された論文を修正し、その時の査読者に再査読を希望する場合は、その旨を明記し、その時の受付番号を原稿提出票に記載してください。また、過去の不採録理由にどのように対応したかを記載した「回答文」を同時に提出することが可能です。ただし、最終的な査読者の決定は、編集委員会が行うものとし、以前不採録判定を下した査読者が再査読を担当するとは限らないものとします。

4.4 論文に付随するデータの提出

論文を提出する際、論文の再現性の確保や読者の理解を助けることを目的として、付随するデータ（テキストコーパス・画像・動画・音声などを含む）を提出することができます。提出されたデータは、査読者および担当編集委員によって参照されるとともに、論文が採録された際には、論文とともに DOI (Digital Object Identifier) を付与した上でリポジトリ (J-STAGE Data) に掲載されます。研究への信頼性やデータの再利用可能性を高めるため、積極的にご活用ください。

データの提出にあたっては、以下の点にご留意ください。

- データの提出を希望する際には、原稿提出票 (4.1 項参照) にその旨を記載してください。原稿および原稿提出票の受け付け後、追って本学会事務局よりデータの提出方法についてご案内します。
- リポジトリの容量には限りがあります。不要なデータ項目の削除、高圧縮率のファイル圧縮形式の利用など、データサイズの縮減に努めてください。著しく巨大なデータの提出が必要な場合は、本学会事務局にご相談ください。
- データの著作権は、原稿と異なり原則として著者に帰属します。論文が採録された場合は、リポジトリに掲載されるデータには原則として Creative Commons ライセンス (CC BY 4.0 以上) が適用されることに同意いただきます (6.2 項参照)。
- 提出するデータの作成にあたっては、関係する法律の遵守、第三者の権利保護につき、十分に留意してください (6.3 項参照)。

5. 提出された原稿の取り扱い

提出された論文は、査読方針 (1 項参照) に従い、所定の査読プロセスにより、採否を決定します。採録と決定された論文は、最終原稿の提出、校正を経て論文誌に掲載されます。

5.1 原稿の受理

投稿された論文は、本学会事務局が受理した後、編集委員長が担当編集委員を選定します。査読・審査の過程で、照会などの必要に応じて担当編集委員から代表著者に連絡することがあります。なお、投稿論文の内容が明らかに不採録に該当（5.3 項参照）すると編集委員会が判断した場合、または、その他、妥当な理由があると編集委員会が認める場合には、査読者による査読を経ずに、不採録と判定をしたり、原稿を著者に返却したりする場合があります。

5.2 原稿の査読・審査

論文は、原則として、担当編集委員が二人の査読者の並列査読に基づいて審査し、編集委員会で次のいずれかに決定し、代表著者に通知します。

A 採録

B 照会・・・著者に照会して回答または修正などを求め、改めて査読を行う。

C 不採録・・・5.3 項に示す場合には不採録とし、理由を付けて著者に通知する。

C1 萌芽論文に推薦・・・会員に有用な情報を含んでいるが、原著論文よりも萌芽論文に適していると判断する場合に、理由および萌芽論文に推薦する内容項目を付して、著者に通知する。

C2 速報論文に推薦・・・会員に有用な情報を含んでいるが、原著論文よりも速報論文に適していると判断する場合に、理由および速報論文に推薦する内容項目を付して、著者に通知する。

5.3 論文を不採録とする場合

論文のカテゴリーにかかわらず、以下のいずれかの場合に該当するときは、不採録の判定となります。

- a. 当学会の分野でない場合。
- b. 本質的な誤りがある、あるいは客観的に認知できない内容である場合。
- c. 論文としての新規性、重要性がない場合。
- d. 他論文誌、雑誌に既発表、または公知の場合。
- e. 難解、形式不完全で改良される見込みがない場合。
- f. 研究上の正当な理由がなく、公序良俗に反する内容、社会的に不適切な内容が含まれる場合。
- g. 査読者用原稿（2.4 項）において、著者の属性が記述から明らかである場合。

5.4 論文特集号における査読・審査

論文特集号へ投稿された論文の査読・審査は、論文特集号ごとに組織される論文特集号編集委員会が、本学会編集委員会からの委任を受け論文の査読・審査を実施します。ただし、査読・審査の手順および基準は、通常の投稿論文と同じです。なお、論文特集号へ投稿された論文でも、本学会編集委員会が論文特集号編集委員会に代わって査読・審査を実施する場合があります。

5.5 最終原稿の提出

採録と決定された論文は、速やかに最終原稿を作成し、電子メールの添付ファイルの形式で、本学会事務局（editor@aigakkai.or.jp）に提出してください。この際、図表ファイル一式、および著者全員の顔写真画像ファイルも一緒に提出してください。

採録後に、最終原稿を作成する際には、論文の主旨を変えるような大幅な修正は認められません。査読者、担当編集委員からの論文をより良くする観点からのコメント、表記上の誤りなどに対応するための修正のみが認められます。なお、最終原稿の提出は、LaTeX システムのソースファイル一式の提出を原則とします、LaTeX システムの利用が困難である場合には、事務局にその旨を連絡し、指示に従ってください。

5.6 最終原稿の校正

著者が最終原稿を事務局に提出後、事務局で校正刷り（PDF）を作成し、代表著者に著者校正を依頼します。校正の際には、元原稿、原図面などの訂正は原則として認められません。著者校正は、PDF の校正機能の利用、もしくはプリントアウトした校正刷りへの校正記号による赤入れを原則とし、LaTeX システムのソースファイルの修正は事務局で行います。

6. 著作権およびその他の注意事項

6.1 原稿の著作権の帰属

論文の原稿の著作権は原則として投稿された時点で、本学会に帰属します。ただし、論文が不採録あるいは返却となった場合には、その時点で、著作権は著者に返還されます。詳細は、以下の「一般社団法人人工知能学会の学会誌及び論文誌への投稿論文等に関する著作権規程」に従います。

「一般社団法人人工知能学会の学会誌及び論文誌への投稿論文等に関する著作権規程」
https://www.ai-gakkai.or.jp/pdf/journal/paper_copyright_reg.pdf

著作権が所属機関にある場合などで、本学会に帰属させることが困難な場合は、投稿時に原稿提出票（4.1 項）にて、その旨お申し出ください。

6.2 論文に付随するデータの著作権の帰属

論文に付随して提出されたデータ（4.4 項参照）の著作権は、著者もしくはデータ作成者に帰属します。

とくに外的制約（分野・研究コミュニティの慣習、個人情報保護、安全保障、契約条項、所属機関・研究助成機関のポリシーなど）がない限り、原則として Creative Commons ライセンス（CC BY 4.0 以上）を付与して公開するものとします。外的制約により、Creative Commons ライセンスでの公開が困難な場合は、投稿時に原稿提出票（4.1 項）に、適用を希望する公開ライセンスを記載してください。公開ライセンスの選定にあたっては、「研究データ利活用協議会」によって策定されたガイドラインなどを参考にしてください。

「研究データの公開・利用条件指定ガイドライン」
https://japanlinkcenter.org/rduf/doc/rduf_license_guideline.pdf

6.3 第三者の権利保護

執筆および付随するデータの作成に際しては著作権法などの関係する法律を遵守するとともに、第三者の基本的人権および著作権、肖像権、プライバシーなどの法的権利につき、以下の項目に十分留意してください。

- 第三者の著作権、肖像権、名誉、プライバシーなどの権利を尊重すること。
- 第三者の著作物の引用（著作権法第 32 条）にあたっては、公正な慣行に合致すること、また、引用は、正当な範囲内で、引用部分を明記し、出所を明示すること
- 引用の範囲を超える著作物（自著を含む）の利用にあたっては、第三者が保有する当該著作物の権利に注意すること。
- プライバシーに関わる情報は、関連法規を遵守するとともに、利用に関して適切な配慮を行うこと。
- 特定の条件の下で第三者より入手した情報は、利用、公開方法に注意すること。
- 第三者に対するハラスメントにつながる内容とならないように注意すること。

論文および付随して提出されたデータの内容が、第三者の基本的人権および各種の法的権利を侵害した、あるいは第三者に損害を与えたとの指摘がなされた場合には、著者がその対応に当たり、その責を負うこととします。

提出されたデータが J-STAGE Data のシステム利用規約に違反することが明らかになった場合は、本学会もしくは J-STAGE Data の運用機関によって、著者の了解を得ずにリポジトリからデータが削除されることがあります。

6.4 研究倫理への配慮

近年、二重投稿、ギフトオーサiership、剽窃など、科学コミュニティ内における研究倫理に反する行為が報道などを通じて相次いで明らかになり、社会が科学コミュニティに向ける目が厳しくなりつつあります。また、人工知能研究への社会的な関心の高まりとともに、研究倫理に反する行為が行われた場合のインパクトが以前よりも大きくなっています。執筆に際しては、研究対象分野のコミュニティあるいは所属組織が要請する各種の行動規範（研究不正の防止、倫理委員会による審査およびモニタリングの受け入れ、実験参加者や情報取得対象者からのインフォームドコンセントの取得などを含む）を遵守してください。

また、本学会では、学会員の行動規範として「人工知能学会倫理指針」を策定し、以下の Web サイトにて公表しています。

「人工知能学会倫理指針」
http://ai-elsi.org/report/ethical_guidelines

本学会の倫理指針は、査読プロセスにおいて論文が倫理指針にあっているかをチェックすることを意図したものではなく、人工知能技術のもたらす正負のインパクト両面に関し、社会および学会員との対話を促進する基盤とすることを目指して策定されたものです。論文誌が本学会における社会および学会員との対話の重要な手段の一つであることに鑑み、本倫理指針を活用することを期待します。

7. 論文掲載料および別刷代

投稿した論文が論文誌に掲載された場合には、表 3 に示す論文掲載料（論文誌掲載の代金、および、学会誌上への概要掲載の代金を含む）を本学会に支払うことを承諾したものとします。なお、別刷を希望する場合は、表 3 に示す別刷代を申し受けます。

表 2 対象分野のキーワード

大分類	小分類
-----	-----

基礎・理論

エキスパートシステム, オペレーションズリサーチ (例: 数理計画法, 数値最適化など), グラフ理論, 計算論的神経科学・脳科学, シンボルグラウンディング, スケジューリング, 制約充足問題・充足可能性問題 (CSP/SAT), 探索・論理・推論アルゴリズム, 認知科学 (例: 認知心理学, 認知神経科学, 認識論など), 認知アーキテクチャ, 汎用人工知能, ヒューリスティクス, ファジ理論, プランニング, プロダクションシステム, ベイズ推定, 包摂アーキテクチャ, ルールベースシステム, その他

機械学習

異常検知, 遺伝的アルゴリズム, 概念学習, 強化学習, クラスタリング, 計算論的学習理論, 情報論的学習理論, 進化計算, 深層学習, スパースコーディング, 敵対的学習, 転移学習, 統計的学習, ニューラルネットワーク, パターン認識, 半教師あり学習, 表現学習 (エンベディング), その他

知識の利用と共有

オントロジー, 知識獲得・発見, 知識共有・管理, 知識表現, 知識グラフ, 知識ベース, データマイニング, その他

Web インテリジェンス

Web インタラクション, Web マイニング, クラウドソーシング・ヒューマンコンピューテーション, 集合知, セマンティック Web, 情報検索, 情報推薦, ソーシャルメディア, その他

エージェント

意思決定・合意形成, オークション, 群知能, ゲーム理論, シミュレーション, 分散協調, マーケットデザイン, マルチエージェント, その他

言語メディア処理

意味理解, オノマトペ, 会話・談話・意図理解, 機械翻訳, 対話処理・対話システム, テキストマイニング, 非タスク指向対話 (例: 雑談, チャットボットなど), 要約, その他

画像音声メディア処理

一般物体認識, 音声認識, 音声生成, 画像認識, 画像生成, コンピュータビジョン, ジェスチャー認識, 動画像処理, マルチモーダル処理, その他

ロボットと実世界

記号創発ロボティクス, サイバーフィジカルシステム, 身体性, 知能メカトロニクス, 知能ロボット, 知能ロボティクス, 認知ロボティクス, ヒューマンロボットインタラクション, その他

ヒューマンインタフェース

アフォーダンス, ヴァーチャルリアリティ (VR) (AR, MR などを含む), 感性 (例: 感性工学, 触覚・味覚・嗅覚認識, 質感など), 行動推定, 行動変容, 仕掛学, 情報可視化, スキルサイエンス, 知的ユーザインタフェース, ヒューマンエージェントインタラクション, ヒューマンコンピュータインタラクション, マルチモーダルインタラクション, その他

AI 応用

AI ライフサイクル, 計算社会科学, 行動経済学, データサイエンス, バイオインフォマティクス, マテリアルズインフォマティクス, 医療・ケア応用 (例: 診断, ゲノム医療, 看護, 介護, 障がい者支援など), 学術応用 (例: 生物学, 歴史学, 考古学など), 教育応用 (例: 知的教育システム, 教育支援など), 芸術・エンタテインメント応用 (例: 創作, 作品の生成・評価・鑑賞, 絵画, 音楽, コミック, ゲーム, スポーツなど), 産業応用 (例: 農業, 漁業, 林業, 製造, 建設, 不動産, 金融, 投資, 保険, 小売, 通信, メディア, 広告, ファッション, 食など), 社会インフラ応用 (例: 交通, 物流, 自動運転, エネルギー, 水道など), 社会課題応用 (例: 法律, 政治, 都市・地域課題, 合意形成支援, シビックテクノロジー, グリーン AI など), マネジメント応用 (例: 経営, 人事, 組織など), その他

AI と社会

Well-being Computing, AI 公平性, AI 信頼性 (AI の評価・検証などを含む), AI 説明可能性, AI 倫理, プライバシー (例: プライバシー保護データマイニング, プライバシーに配慮したデータ活用など), その他

表 3 論文掲載料および別刷代（単位：円，消費税込） 別刷は 50 部から注文を承ります。

ページ数	掲載料（別刷なし）	別刷代（10部 当たり）	ページ数	掲載料（別刷なし）	別刷代（10部 当たり）
1	15,000	1,000	9	150,000	2,250
2	30,000	1,000	10	180,000	2,500
3	45,000	1,000	11	195,000	2,750
4	60,000	1,000	12	210,000	3,000
5	75,000	1,250	13	225,000	3,250
6	90,000	1,500	14	240,000	3,500
7	105,000	1,750	15	255,000	3,750
8	120,000	2,000	16	270,000	4,000

以下，1 ページ増につき，掲載料 15,000 円，別刷代 250 円増。